

### <誌上再録>

## 短波とシステムエンジニアと私 — 大武 逞伯

日本短波クラブのスタッフの一人として国際的に活躍しておられる大武<sup>としみち</sup>逞伯さんがシカゴに来られました。アメリカのペンシルバニア州で毎年3月にひらかれる「Winter SWL Festival」に出席された帰途で、私も折よくテネシーでの集会が終わったので、シカゴ空港で待ち合わせしてともに我家に向いました。

### 短波リスナーの集まりはいかがでしたか？

今年は20周年で世界各国から二百人近く集まり、HCJBのグラハムさん(DX Partyline)にもお会いしました。短波放送のデジタル化、インターネット放送、WIFI接続なら世界の何千局がパソコンで聴けるなど技術的な話題でにぎわいました。アメリカでは衛星ラジオも爆発的に売れ千四百万人が契約しているし、i-Podの出現や日本では携帯電話がワンセグ放送でテレビまでみることができるという時代になりましたが、それはそれとして、やっぱり短波は短波、チャレンジの世界だし、ラジオは基本的なメディアで想像の世界がひろがるし、脳の活性化にも役立つし、決してなくならないだろうと話合ってきました。



### 大武さんが短波をききはじめてのは？

高校生の頃に鉱石ラジオからはじめて、真空管の数をふやしながら当時最高級の5球スーパーまでいきました。進学した東北大学が仙台で、憧れのエンジニアリングの勉強もできるし、入会した日本短波クラブ(会員番号107番)もあるしで一挙両得でした。

### 社会に出られてどういうお仕事をしておられましたか？

大学を出て最初に手がけたのは新幹線のための安全装置の開発でした。超高速では運転士がカーブにさしかかった際、障害物の確認ができないので電波を使って探知しようというプロジェクトでした。成功すれば生涯グリーン車に乗せてもらえるというので必死になって考え、直進する電波を線路に沿って曲げる導波ガイドラインを設置する案で実用試験までこぎつけたのですが、保線工事に邪魔になるということで採用されませんでした。結局は立体交差と線路わきにフェンスをめぐらすというシンプルな技術で障害物が入らないようにして本来の目的は達成されたのです。すべての技術開発は本来の目的がどこにあるのかをしっかり見据えたものでなくてはならないことを最初の経験で学ばされました。今でも仕事には「目的はなんですか」を基本に置くようにしています。

## 宇宙開発の衛星部門がご専門とおききましたか？

たまたま私が短波放送をきいていて英語ができたのでアメリカとの技術提携の交渉に行かされたのがきっかけです。フロリダの宇宙衛星打ち上げ基地にも滞在してアメリカの宇宙開発の内幕をみましたが、やはり自分が最初に思っていたことがアメリカのシステム・エンジニアリングでも展開されていることがよくわかりました。宇宙開発ではまず Mission Requirement (目的達成のための必要条件)が掲げられ、そのために既存の技術を生かすか、新技術の開発が必要かを分析検討して、タイムラインに沿って開発リスクを解決しながら大きなシステムをつくっていくのです。それがアメリカの宇宙開発を成功に導いた鍵でありシステム技術の典型なのですね。今は定年退職しましたが、独立してコンサルタントとして宇宙システム関係の情報を提供しつづけています。

ありがとうございました。今年は日本短波クラブ55周年ですね。8月には「ハムフェア」のJSWC特別ブースでぜひまたお会いしましょう。

(内容は2007年3月17日、24日の放送番組から一部再録したものです)

HCJB日本語放送担当

在 住 尾 崎 一 夫

## HCJB日本語放送(オーストラリア送信):

放送日時: 毎週土曜日、日曜日  
日本時間 0730 - 0800 (2230 - 2300UTC)  
送信周波数: 15525 kHz (19mb)  
受信報告書の宛先: 〒169-0073  
東京都新宿区百人町1-17-8  
淀橋教会HCJB係  
(※返信用に80円切手を2枚同封して下さい)

## 【ホームページのご案内】

HCJB日本語放送のホームページ(<http://japanese.hcjb.org/>)には、リスナー・コミュニケーションのためのふれあいコーナー「フォーラム」(<http://japanese.hcjb.org/forums/>)と、メールマガジンのバックナンバーを揃えた「メールマガジン e-La Voz らいぶらり」(<http://www.hcjb.org/japanese/mnz/>)のページがあります。どうぞご利用ください。

このメールマガジンは、HCJB日本語放送の管理するメール・リストに登録されている方に無料でお送りしています。このメールマガジンをご覧になってのご感想やご意見、ご要望などは、[HCJB日本語放送](#)までお送りください。

また、このメールマガジンの配信停止、配信先変更、あるいは新規ご登録も[HCJB日本語放送](#)までメールにてお知らせください。なお、メール・リストは配信先メール・アドレスのみで管理されていますので、配信先変更をご希望の場合には、現在登録されている配信先も併せてお知らせください。



Copyright © 2007 by HCJB. All rights reserved.

日本語ホームページ: <http://japanese.hcjb.org/>

Eメール: [kozaki@hcjb.org](mailto:kozaki@hcjb.org)

郵便の宛先:

Mr. Kazuo Ozaki

1920 Berkshire Pl., Wheaton, IL 60187-8050, U. S. A.